

## 原材料や燃料高騰が重しに

原油や資源などの価格が高騰し、景気回復の重しとなっている。当社が県内企業四百十三社に対して今年一月に行った調査では、約六割の企業が原材料や燃料などの仕入れ価格が上昇傾向にあると回答した。

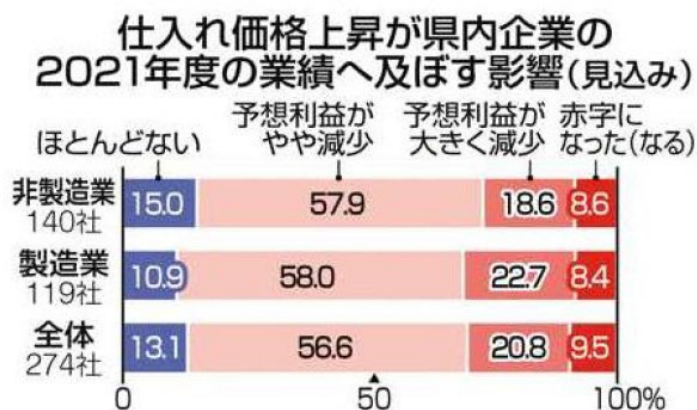
この六割の中で、仕入れ価格の上昇によって二〇二一年度決算で赤字を見込む企業が9.5%、利益が大きく減少すると予想する企業が20.8%。計約三割の企業が業績に大きな影響を受けていることが浮かび上がった。

一年前と比べた仕入れ価格の上昇率は、全企業平均で25.6%。石油製品、ガス、金属、木材、食品、衛生設備などあらゆる原材料が値上がりしている。

対策として販売価格の値上げに踏み切る企業もあるが、仕入れ価格上昇分の90%以上を販売価格に転嫁できている企業は約二割にとどまる。一方、「50%も転嫁できていない」「販売先と交渉中」とする企業が合わせて四割弱に上った。価格転嫁以外に、合理化や経費削減、調達先とのコスト抑制交渉といった努力で補う企業もある。

原材料価格高騰の背景には、新型コロナウイルス禍による生産減少、物流逼迫など複合的な要因がある。さらにロシアのウクライナ侵攻により、今後一層の原油、資源高が予想され、企業収益のさらなる悪化が懸念される。

(コンサルティング事業部 調査グループ 主任研究員 谷ノ上 千賀子)



※グラフは中日新聞記事より転載

中日新聞「データを読む(百五総合研究所 谷ノ上千賀子さんに聞きました)」

2022年3月3日